



末梢静脈カテーテルのアセスメントと判断ツール

I 末梢静脈カテーテルが留置されているか確認

末梢静脈カテーテルが抜去されて 48 時間以内の場合は、注入後静脈炎が起きていないか挿入部位を確認すること。

D その末梢静脈カテーテルの留置は必要か？

24 時間以内に使用していない、またはこれから 24 時間以内に使用しないのであれば抜去し、内服への変更を検討すること。

E そのカテーテルは閉塞などなく機能しているか？

カテーテルのフラッシュやロックに問題はないか？カテーテルのフラッシュやロックの方法は施設ごとの基準に従うこと。

C 末梢静脈カテーテル挿入部位に合併症はあるか？

合併症：痛み（NRS 2 点以上）、発赤 > 1cm、腫脹 > 1cm、浸出液、浸潤、Ⅱ管外漏出、硬結、血管に沿った触知可能な索状物や化膿

I 感染予防

カテーテルの接続の都度、事前に手指衛生、ハブの消毒と乾燥、慎重な輸液セットの使用

D ドレッシングと固定

清潔の保持、ドレッシング部位の乾燥、破損の有無の確認
カテーテルとラインの固定

E 評価と教育

患者と家族へ静脈投与の治療計画について説明すること。

D 末梢静脈カテーテル管理に関わる判断を記録

継続か、ドレッシング/固定具の交換か、カテーテルの抜去かを判断

常に施設ごとに設定されている基準を考慮し、
必要に応じてチームと患者に相談してください。